協賛企業がスポーツイベント支える

パネルディスカッション

知的財産戦略の新しい課題～スポーツビジネスを考える 拡大する不正商品対策～

(放映権、スポンサー権、マーチャンダイジング権、呼称、シンボルマーク、マスコットの使用ほか)

左からモデレーターの遠山、山下、細倉、青木、鶴田の各氏

パネルディスカッションの出席者

国際基督教大学 教育コーチング理事 山下 泰裕氏
日本オリンピック委員会 総務部部長代理 細倉 浩司氏
1998年長野オリンピック招致委員会 マーケティング部長 青木 輝政氏
商船三井 常務執行役員 鶴田 友晴氏
モデレーター
弁護士・ACA監事 遠山 友寛氏

スポーツの大切さ

遠山 スポーツとビジネスというテーマで最近の話題は、レッドソックス松坂大輔投手のニュースです。ポスティング制度で支払われた六十億円という金額は日本のプロ野球一球団の年間総経費に匹敵します。ビジネスとしての収益性を考えているとはいえ、すごいと言わざるを得ません。スポーツには感動と悩しさが背にあると思いますが、山下さんいかがですか。

山下 最も悔しかったのはモスクワ・オリンピックのボイコットです。チャレンジする権利を奪われたことは確かに悔しかったですが、大きな枠組みで考えたとき、スポーツの重要性、価値を理解してもらう努力がスポーツ界に不足していたように思います。

遠山 長野オリンピック開催に際して感動した青木さんが最も感動したシーンは。

青木 最も感動したのは長野オリンピックの閉会式です。地元出身の作曲家・音楽長之氏の作品「ふるさと」が歌われましたが、十年間オリンピックに携わり、成功に向けて二年間苦労した結果に立ち会うことができ、感激した記憶があります。

遠山 ラグビーワールドカップの招致活動について。

鶴田 二〇一一年のラグビーワールドカップ招致はニュージーランドに小差で敗れましたが、我国としては日英同盟の国が投票権を二票持っていることや、ニュージーランドの国際オールブラックスの人気も影響したように思います。

山下氏

国民に夢と感動与える スーパーヒーロー重要

海外との交流今も続く 独自内容を世界に発信

招致活動には絶叫さが要求されるとともに、世界で互角に戦える日本代表のレベル向上もポイントです。

遠山 細倉さんに招致活動の現状について。

細倉 正式な立候補はこれからですが、今は米国がロサンゼルスかシカゴで盛んに活動しています